



CHIBABANK

EUインサイト

2019年8月号

オーバーツーリズムについて

千葉銀行ロンドン支店

7月の「海の日」や8月の「山の日」、お盆休みなどを利用して海外旅行に出かけた方も多いのではないのでしょうか。

さて、今回の EU インサイトでは、近年旅行・観光産業で注目を集めている「オーバーツーリズム」についてお送りします。

○オーバーツーリズム

1. はじめに

国連世界観光機関(United Nations World Tourism Organisation: UNWTO)が発表した最新の世界観光統計によると、2018年の海外旅行者数は過去最多となる14億人と、この10年間で約2倍に増加しました。輸送費の低コスト化、格安航空会社(Low Cost Carrier: LCC)の普及、観光ビザの緩和等を含む旅行の円滑化を受け、特に新興国で拡大する中流階級層の台頭が観光産業の成長を後押ししています。

世界旅行ツーリズム協議会(World Travel & Tourism Council: WTTC)が2017年に発表したデータによれば、観光産業が全世界にもたらす経済効果は840兆円を超え、世界GDPの約10%、全雇用の約10%を生み出しているとされており、観光産業は成長著しい分野の1つとして注目が集まっています。

2. オーバーツーリズムとは

観光産業が堅調な成長を見せるなか、ヨーロッパ各地では「オーバーツーリズム」が社会問題の1つとなっています。UNWTOによれば、オーバーツーリズムとは、「ある観光地において、自然環境、経済、社会文化にダメージを与えることなく、また観光客の満足度を下げることなく、1度に訪問できる最大の観光客数を超過した、観光資源の過剰利用とその結果生じる問題事象」と定義され、観光地の許容限度を超える観光客が押し寄せることで弊害が生じる事態の総称です。

では、実際にヨーロッパ各地ではどのような問題が生じているのでしょうか。

3. ヨーロッパにおけるオーバーツーリズムの現状

(1) スペイン、バルセロナ

スペインは1992年のバルセロナ・オリンピックを機に観光振興に注力し、2010年代の一時期にはフランスを抜いてインバウンド数が世界第一位になるなど、観光産業が目覚ましい成長を遂げている国の1つです。その第二の都市であるバルセロナには、建築家ガウディが生涯をささげた世界遺産「サグラダ・ファミリア教会」をはじめとした歴史的建造物を求め、スペイン国内のみならず、フランスやイギリスなどのヨーロッパ周辺から多くの観光客が訪れています。

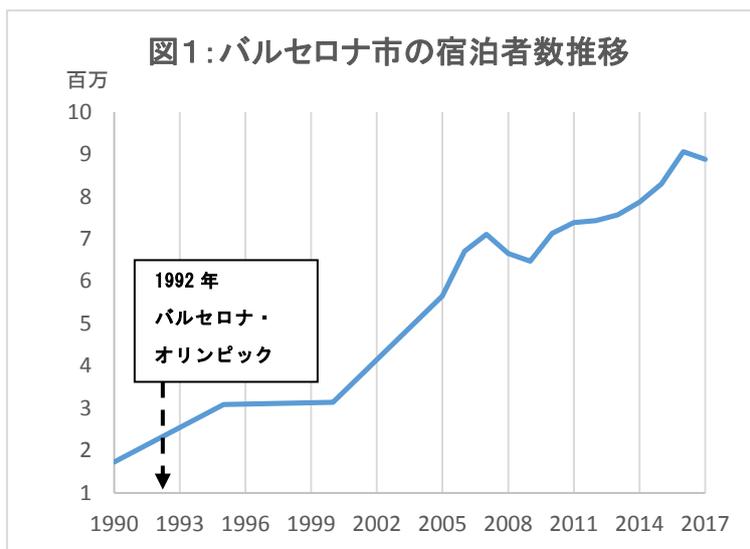


図2：バルセロナ市のホテル数推移

	ホテル数
1990年	118
2000年	187
2010年	328
2015年	381
2016年	409
2017年	423

図1、2出典：バルセロナ市「2017 Informe de l' activitat turística a Barcelona」
 ※ホテル数は、ゲストハウス、イン、ホステル、アパートメント等の形態を除く

上図のとおり、バルセロナ市の宿泊者数はオリンピック前の1990年に173万人だったのに対し、直近2017年には888万人と、27年間で5倍強に増加しました。観光客の増加と比例して宿泊施設も増加しており、ホテル数は同期間で118か所から423か所へと増加しました。こうした宿泊施設の多くは主要観光地が集中する旧市街地区やその外側に広がる拡張地域に建てられています。そして、周辺地域での慢性的な交通渋滞や騒音、また住宅価格や賃貸物件の家賃の急騰など、観光客の急増を要因とした問題が顕著になり、結果的に地元住民が都市を離れざるを得ない事態を招きました。

こうした流れの中、2015年、オーバーツーリズム対策を選挙公約としたアダ・コウラ市長の当選を契機として、国や行政主導の次のような本格的な対策が開始されました。

① 観光客、観光地への取り組み

観光客数の適正化や観光地周辺の混雑緩和を目的として、下記のような取り組みを実施しています。

- ・ 宿泊施設の星数に応じた観光税の徴収。
 （市内の5つ星ホテルは2ユーロ（約236円）、4つ星は1.25ユーロ（約148円）、その他は0.75ユーロ（約89円）。観光税はバルセロナ市内外で差別化され、市内は割高）
- ・ 観光ツアー1グループあたりの人数を25名までに制限。
- ・ 主要観光施設におけるオンライン予約サービスの導入、入場料の徴収、時間制限。

＜グエル公園での取り組み＞

トカゲの噴水が有名なモニュメントエリアの入場は、1 度につき 400 人までに制限し、観光客には事前のオンライン予約を推奨するとともに、入場料を徴収。

観光客の出入口を制限し、施設職員による観光客の監視を強化。

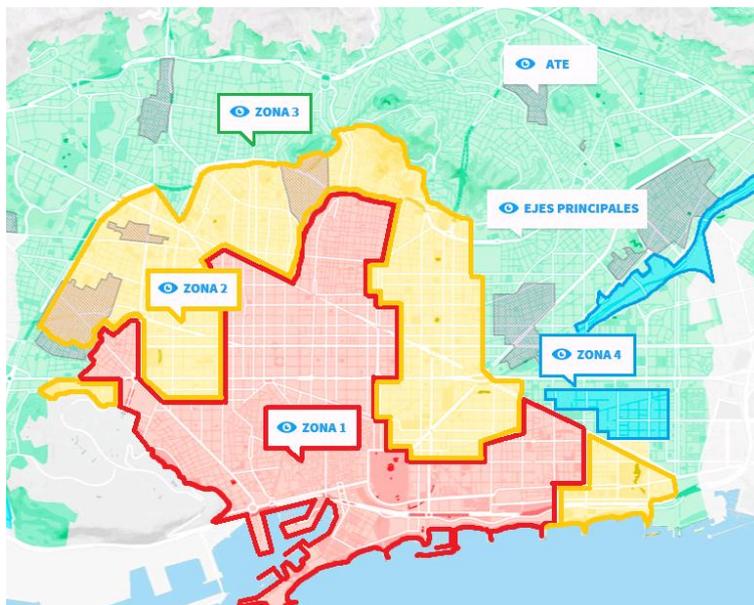
一方、地元住民は無料で制限無くいつでも公園を利用することが可能な措置をとっている。



グエル公園(筆者撮影)

② 宿泊施設への取り組み

2017 年 1 月、宿泊施設への取り組みとして、バルセロナ市は「観光用宿泊施設特別都市計画」(PEUAT)を制定しました。市内を大きく 4 つのゾーンに区切り、宿泊施設の制限、管理を徹底することとしました。



ZONA1	一切の新規宿泊施設の建設を禁止
ZONA2	既存の施設が閉鎖した場合、同部屋数の施設が立地可能
ZONA3	新規建設可能
ZONA4	再開発区域

地図データは ajuntament. Barcelona より取得、筆者加工

上図のとおり、宿泊施設の建設について、旧市街地区やその周りの拡張地区地域など、多くの観光資源が立地する市内中心部には厳しい規制を敷く一方で、相対的に宿泊施設数の少ない郊外部や再開発と連動する地域にのみ、新規建設を認めていく方針を発表しました。

宿泊施設の立地をコントロールすることで、地元住民の生活空間を確保し、観光地と地元の住居空間のバランスを図ることをねらいとしています。

(2) オランダ、アムステルダム

オーバーツーリズムの問題を抱えているのは、バルセロナのような大都市ばかりではありません。

オランダの首都アムステルダムは、人口 85 万人とそれほど大きな都市ではありませんが、2010 年に運河地区が世界遺産登録されたことを皮切りに、年間数百万人の観光客が訪れるヨーロッパ有数の観光都市です。



アムステルダム中心部(筆者撮影)

アンネ・フランクの家、ゴッホ美術館、アムステルダム国立美術館などの観光名所があるアムステルダムでは、2008 年に 450 万人だった観光客数は 10 年後の 2018 年に 1,800 万人を突破しました。アムステルダム観光局は、観光客数が 2030 年に 4,200 万人まで増加すると予想しており、これは現在の市の人口の約 50 倍にあたります。

そこでアムステルダム観光局では、観光客数を抑える方向へ転換し、2004 年より「I amsterdam」と称して行ってきたインバウンドキャンペーンから市内主要部を除くこととしました。これにより、アムステルダム市内の宿泊施設や娯楽施設への規制強化や閉鎖を進め、オランダ国内の別の場所へ観光客を分散させるための次の取り組みを開始しています。

① 宿泊施設への取り組み

- ・市内中心部におけるホテル建設の禁止。
- ・宿泊施設に対する観光税の定額制化及び新規導入。

アムステルダムでは、ホテル宿泊費用の 6%を観光税として徴収していますが、これを一律 10 ユーロ（約 1,180 円）とするほか、安宿や民泊にも導入する方向で検討中。

- ・Airbnb 等の民泊への規制強化

2018 年 1 月より、賃貸可能日数を年間最大 60 日までとし、Airbnb 等に賃貸住居を提供している住民には、自治体へ賃貸住居リストの報告を義務付ける。これを怠った場合には、最大 6,000 ユーロ（約 72 万円）の罰金が課される。

② 娯楽施設への取り組み

- ・市内中心部における観光客向けの店(アイスクリーム店等)の出店規制。
- ・ビール・バイク[※]の禁止

※ 1 台に 10 人ほどのグループで乗車し、ビールを片手にペダルをこぎながら散策が可能な観光用の乗り物。同バイクによる交通渋滞、事故が頻発し、2017 年 11 月より、市内中心部での営業が禁止されている。

③ 観光客分散への取り組み

- ・混雑の原因となっていた、市内中心部の「I amsterdam」モニュメントの取り外し。
- ・大型クルーズ船のターミナルを、市内中央駅付近から市外北海沿岸に移設。
- ・アムステルダムから 30 km の距離にあるビーチを「アムステルダム・ビーチ」へ改称し、市内中心部からの送客を促進。
- ・交通カードの使用可能範囲の拡大。

(対象範囲をアムステルダム近郊の都市〈ロッテルダム、デン・ハーグ、ユトレヒト、アイントフォーヘンなど〉まで拡大し、訪問可能範囲を拡充)

- ・「Discover the city」アプリの導入。

(観光客に対し観光地情報やアプリ利用の特典を提供する一方で、観光客の動向を分析し、観光地への密集が予想される場合は他の周辺スポットを紹介)



市街地に設置された「I amsterdam」モニュメント
(筆者撮影)

(3) イギリス、スコットランド

これまでバルセロナ、アムステルダムといずれも有名な観光都市について取り上げましたが、オーバーツーリズムに頭を悩ませているのは、都市に限ったことではありません。

スコットランドの北東部に位置するスカイ島(Isle of Skye)は、近年、手付かずの自然を求めて急増する観光客への対応に苦悩しています。

同島は、フェアリープールと呼ばれる滝や島全体を眺められる灯台、尾根道や岩石で作られた美しい眺望が注目を浴び、若手アーティストによるミュージックビデオや、車の宣伝広告、映画やテレビ番組の撮影を通じて、その自然の美しさが広く知られるようになった観光地の1つです。

しかし、何十年もの間開発から取り残されていたスカイ島においては、急増した観光客を受け入れられるだけのインフラは整っておらず、交通渋滞やごみの問題が深刻化しました。

スコットランドの観光団体 VisitScotland によれば、同島最大の町ポートリーを訪れた観光客は 2017 年時点で 15 万人と、島全体の人口 1 万人を大きく上回っています。夏の休暇シーズンともなると、港には 1 日 30 隻以上のクルーズ船が停泊しており、また、日帰りクルーズ客も大勢受け入れています。



写真元 : Unsplash Photo by Joshua Earle

この事態を受け、地元ハイランド議会では、30万ポンド(約4,000万円)を投じて、主要観光地の駐車、トイレ設備の拡充や、キャンプサイトの拡張を決定しました。人口減少が進むスカイ島においては、観光産業は地元経済を支える重要な収入源となっていますが、一方で観光資源のほとんどが自然環境であるために、大都市とはまた違う難しい対応が求められています。

4. オーバーツーリズムの解決に向けて

この数年で、ヨーロッパ大陸は海外からの観光客数が最も多い地域となりました。LCCの発展、シェアド・エコノミーの利用増加、ソーシャルメディアの影響などによって、旅行方法も十人十色に変化しています。

観光客の選択肢が広がった分、主要都市における観光産業はすでに飽和状態にあるとも言え、反対に地元住民の生活環境を侵害しているという認識が明らかになってきました。先に取り上げたヨーロッパ各都市の事例は、観光客と住民の両者が満足できるような観光産業の体制を早急に講じる必要性を示唆しています。

観光客の満足度を高め、リピート率を向上させる一方、観光産業によって地元住民の生活レベルを向上させるためには、①公共部門と民間部門双方が観光地をより良くするための計画と、②オーバーツーリズムに伴い発生する課題の解決に徹底的に協同して取り組む必要があるでしょう。

旅行形態の変化は、都市の改善を後押しするポテンシャルを秘める一方で、伝統的なアイデンティティを守ろうとする地元住民との軋轢を生じさせるリスクも負っています。観光産業が成熟していくためには、観光客だけが楽しむのではなく、地元住民や観光体験を提供する側にも社会的利潤をもたらす良好な関係の構築は欠かせないでしょう。オーバーツーリズムと向き合うことは、国際都市として更なる成長を遂げる可能性を秘めているかもしれません。

(重要な注意)

※なお本資料は作成時点で入手可能な資料及び一般に信頼し得ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性につきましては弊行で保証する性格のものではありません。

【参照文献、ウェブサイト】

阿部大輔(2019)「オーバーツーリズムに苦悩する国際都市」, 『観光文化』第240

高坂晶子(2019)「求められる観光公害(オーバーツーリズム)への対応ー持続可能な観光立国に向けてー」, 『JRI レビュー』2019Vol.6, No.67

Harold Goodwin (October, 2018). “Managing Tourism in Barcelona”

Rostislav Stanchev (n.d.). “The most affected European destination by over-tourism”

一般社団法人日本旅行業協会「数字が語る旅行業2018」

東洋経済オンライン(2017年3月25日)「バルセロナが「観光客削減」に踏み切る事情 世界屈指の観光都市が抱える悩み」

<https://toyokeizai.net/articles/-/164660>

2019年8月1日アクセス

トラベルボイス(2018年1月12日)「オーバーツーリズムとは?観光客の増え過ぎ問題、アムステルダムは規制強化へ【外電】

<https://www.travelvoice.jp/20180112-102383> 2019年8月1日アクセス

The Guardian “Skye islanders call for help with overcrowding after tourism surge”

<https://www.theguardian.com/uk-news/2017/aug/09/skye-islanders-call-for-help-with-overcrowding-after-tourism-surge> 2019年8月1日アクセス

Independent “Scottish Highlands at risk of erosion by tourists seeking ‘perfect picture’, warn activists”

<https://www.independent.co.uk/travel/news-and-advice/scottish-hilands-erosion-instagram-isle-of-skye-iona-orkney-the-bfg-film-trail-a8542661.html>

2019年8月1日アクセス

Inews “British travel hot spots need more investment to tackle overcrowding”

<https://inews.co.uk/inews-lifestyle/travel/the-beaches-visit-cornwall-want-s-tourists-to-avoid-because-of-overcrowding/> 2019年8月1日アクセス